

健康文化

## 人

今井田 二三子

何か心に残った人と生涯出会うこともなく終わることもあれば、十年、二十年を経て偶然に出会うこともあり、その時の驚き、歓びは格別なものがあります。時には最初に出会った時、何時かこの人、この子と会うことがあるかもしれないといった予感があったように思われることもあります。二十年ほど前、お母さんに連れられて私のクリニックを訪れた男の子がありました。大人しい、口数の少ないお子さんでしたが、はっきりと自分の意志を伝えられたような気がします。そのあたりの記憶は曖昧ですが、その態度が心に残り、こうしたお子さんは将来何の道へ進まれるのだろうか、何時か何処かで名前を目にしたとき忘れないように、今一度名前を心に刻んでおこうとカルテを見直したのを覚えています。

二・三年前、その男の子のお母さんが診療所を訪れたとき「息子が医局の新年会で先生を見かけ、声をかけようとしたがもう先生の姿がなかったと言っていました」と告げられ「Sさんはお医者さんになられました？、第一内科の？」咄嗟に御息の名前が口をついて出ました。今や種々の記憶は、まだらに、はがれ落ちている中に御息の名前は鮮やかに私の脳細胞の中に残っていました。そして偶然にも御息のA先生は昨年から近くの病院に赴任され、年末の病診連携の勉強会を兼ねた懇親会の席で親しくお目に掛かる機会を得ました。その温かく爽やかな笑顔の挨拶を受けた時、私の胸は歓びと感激で一杯でした。更に帰りがけに「いい医者になります」と小声で告げられたとき医者冥利を感じ、最高、最良の年のような気分になりました。

これはまた別の人になりますが、その中学生さんに気付いたのは私も女学生の頃でした、筒抜けるような大声で話す、ひしゃげた学生帽を頭にのせた、がっしりとした体格の学生さんはローカル電車の中では誰の目にもとまる存在でした。通学方向は逆、乗車駅も違っているのにどうして印象に残ったのか不思議

議な気がします。女学生など眼中にない様子は安全とは思いましたが、何かがあったら一喝を受けそうで近くに立つのは恐ろしい感じがしました。その後通学の関係でそのX氏と同じ上りの電車に乗り合わせることもありましたが、その大声は車内中に届くため氏の存在は一目（一聴）瞭然でした。そして数年を経てある日のこと、珍しく昼頃のすいた電車に乗った時、そのX氏と私の従姉妹が座席中央の辺りに並んで腰掛けているではありませんか、私は状況が呑み込めないままX氏を恐れるわけにもゆかず、何時にないX氏のニコニコ顔に安堵して従姉妹達に近づいてゆきました。「私たち、結婚したの」従姉妹のその言葉を聞いたとたん「エーッ」と言って私の目は点になったような気がしました。

それからまた、何年か経過した後、不思議にもH氏（かつてのX氏）を診るようになり、来診の度に読書家の氏の歴史小説のサマリー、市政、国政の解説等々、私の未知の分野の話を知る恩恵に浴することになりました。正義感にあふれ、明快で大声な無冠の帝王の話に私は惹きつけられました。

人生は太く短くが口癖のその人は胃の全摘の後は「あと五年位は生きたい」と繰り返されるようになりましたが、昨年、大腸と胸膜に腫瘍が発見され、昨年末帰らぬ人になりました。多くの人々に愛され、親しまれた人を失った哀惜は一入の思いがいたします。

(内科開業医)